

■習志野市谷津干潟自然観察センター（習志野事業所）

■住所：千葉県習志野市秋津5-1-1 ■HP：<http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/>

■ブログ：<http://www.seibu-la.co.jp/yatsuhigata/blog/>

■Facebook：<https://www.facebook.com/yatsuhigata/>

■施設概要：ラムサール条約登録湿地・谷津干潟に隣接する谷津干潟公園の拠点施設。館内から干潟に飛来するシギやチドリなどの渡り鳥が観察できる。なお、館内にカフェを併設。施設周辺には緑地と淡水池が整備され、谷津干潟の周囲を巡る遊歩道は観察シェルターや観察デッキが設けられている。

■発注元：習志野市

■受託年：平成27年4月～

※指定管理者として、NPO 法人生態教育センター・西武造園（株）・林造園土木（株）による共同企業体「谷津干潟ワイズユース・パートナーズ」が運営する。

■職員人数：5名（うち特別スタッフ1名）

※他に西武造園（株）・林造園土木（株）から5名を配置

■休館日：月曜日、年末年始

●谷津干潟の概要

谷津干潟は、東京湾奥部千葉県習志野市にある、埋立地に囲まれた面積約40ヘクタールの干潟。東京から車で約30分のところにあり、周囲は住宅地となっている。干潟は2本の水路で東京湾とつながっており、潮の干満がある。

干潟に飛来する水鳥はシギやチドリ類、カモ類、サギ類など年間約70種、公園内に飛来する陸鳥は年間約50種が観察できる。干潟内にはヤマトオサガニなどのカニ類、ゴカイ類、ホソウミニナ、アサリなど底生生物が豊富に生息する。他にボラやアカエイなど魚類、ミナミアオサなどの海藻類、各種プランクトン類が観察できる。

谷津干潟は、17年に及ぶ市民による干潟保護運動の末に1988年に国指定鳥獣保護区に指定された。現在の谷津干潟の土地所有者は環境省。1993年、北海道・釧路で開催された第5回ラムサール条約締約国会議で同条約に登録され、干潟としては日本で最初の登録地となる。1996年、渡り性水鳥の保全を目指す東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップに参加している。



谷津干潟全景（京葉測量株式会社提供）



オーストラリアと北極圏を移動するオオソリハシシギ



泥地に生息するヤマトオサガニ



アオサを採食するヒドリガモ

●主な事業

1. 環境教育・広報の取組み

谷津干潟の水鳥や様々な干潟の生物の観察を通じて、谷津干潟の大切さを伝える活動を行っている。館内の観察フロアに常駐するレンジャーやボランティアが来館者を案内し、より興味・関心を持つ層には各種テーマで自然観察会や自然体験のプログラムを提供している。

また、各種発行物やブログ、フェイスブックなどの媒体を使って情報発信を行い、普及啓発に取り組んでいる。



レンジャーによる
個別の案内



レクチャールーム
での団体対応



館内ガイドウォーク

2. 市民参加の取組み

観察センターの事業の趣旨に賛同する約140名の市民が施設ボランティアとして登録している。将来の谷津干潟の保全や観察センターを担う人材の育成を目的に、小中学生を対象に「谷津干潟ジュニアレンジャー」プログラムを提供。また、谷津干潟の保全とワイズユースをテーマに活動する高校生・大学生たち「谷津干潟ユース」を支援している。



ボランティアによる案内活動



谷津干潟の日に
宣誓するジュニア
レンジャー



谷津干潟の日に
ワークショップを
開催した谷津干潟
ユース

3. 谷津干潟の保全・地域協働の取組み

谷津干潟の保全を進めるため、ラムサール条約登録を記念して毎年実施するイベント「谷津干潟の日」を通じて地域協働に取り組んでいる。谷津干潟で鳥獣保護区保全事業を行う環境省関東地方環境事務所、シギ・チドリの標識調査を行う山階鳥類研究所、アオサの生態を調査する国立環境研究所などと協力・連携している。



毎年開催されるイベント「谷津干潟の日」

4. 国際交流・ネットワークの取組み

ラムサール条約登録をきっかけとする習志野市とオーストラリア・ブリズベン市（ブーンデル湿地）との湿地提携に基づき湿地交流を行っている。自然情報の交換のほか市民訪問団を相互に派遣している。また、国内外の湿地との交流や国際会議への参加も行っている。



ブリズベン市からの訪問団の皆さんと